

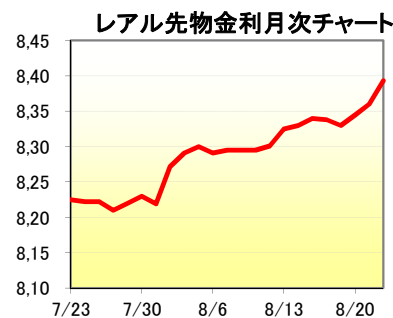
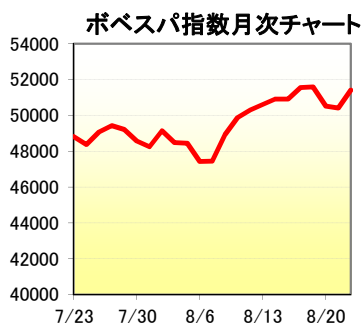
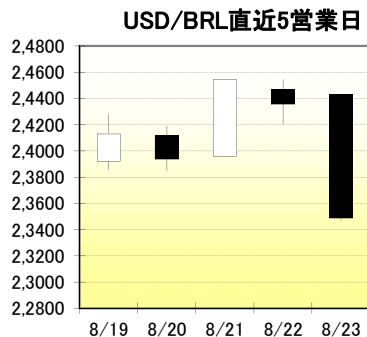
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			8月19日	8月20日	8月21日	8月22日	8月23日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,4140	2,3930	2,4370	2,4410	2,3570	-0,0840
	USD/YEN	Spot	97,63	97,26	97,65	98,74	98,72	-0,0200
	EUR/USD	Spot	1,3339	1,3421	1,3364	1,3354	1,3380	+0,0026
	BRL/YEN	Spot	40,46	40,63	39,79	40,55	42,03	+1,4800
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,77	1,58	1,74	1,92	1,80	-0,1250
		1Year(p.a.)	2,13	1,92	2,17	2,32	2,21	-0,1112
	Real Interest	6MTH(p.a.)	9,51	9,38	9,42	9,44	9,37	-0,0716
		1Year(p.a.)	10,22	9,96	10,05	10,19	9,88	-0,3102
Stock	Bovespa		51.574	50.507	50.405	51.398	52.197	+799,40
Bond	CDS Brazil 5y		211,37	211,37	220,00	211,25	200,47	-10,7840
	Global 40		119,000	118,625	118,000	118,000	118,500	+0,5000

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊社担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回		
FGV消費者信頼感(8月)	--	113.1	108.3	マシエル伯中銀 経済調査部長	伯中銀は必要に応じて更なるレアル安対策を実施することが可能
FGV CPI IPC-S (8月22日)	0.13%	0.16%	0.05%		
経常収支 (7月)	-\$8400M	-\$9018M	-\$3953M		
対内直接投資 (7月)	\$5300M	\$5212M	\$7170M		

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は US\$1=R\$2.3920 で寄り付いた。
- 週初のレアルは売りが優勢となったが、伯中銀が2度に渡るドル売り介入を実施すると一時的にレアルの買い戻しが見られた。しかし伯中銀の30億ドル相当のドル売り介入が終了すると再びレアル売り圧力が強まり、伯中銀は1日で3度目となるドル売り介入を通知しレアルは2.40台後半まで買い戻されたが、効果は限定的となった。
- 翌20日には早朝から伯中銀が2度に渡りドル売り介入を実施すると、レアルは再び買いが優勢となり2.38台半ばまで買い戻されたが、大口の資金流出の噂が聞かれるとレアルは再び2.40台後半まで反落した。
- 週央にかけては米FOMC議事録の発表を控えて様子見気分が強まる中、リスク資産の売りが見られレアルもつられてじりじりと2.42台後半まで売られた。その後米FOMC議事録が発表され、内容からはほぼ全ての参加者が年内に債券購入ペースを減速させる計画を「おおむね支持」していることが明らかになり、レアルは年初来安値を更新し4年半振りの水準となる2.4540を付けたが伯中銀がドル売り介入を通知するとレアルは2.43台後半まで買い戻された。
- 翌22日にはPTAX決定に向けてのドル買い需要が強く、レアルは週間安値となるUS\$1=R\$2.4550を付けたが、PTAX決定後に輸出企業を中心としたドル売りが見られるとレアルは2.4200まで急反発した。更に、マーケット時間終了後に伯中銀は少なくとも今年の12月31日まで5億ドル相当のドル売リスワップを毎週月曜日から木曜日まで毎日実施するとの対策を発表した。
- 週末にかけては伯中銀の上記対策を受けてレアルは2.38台半ばまで大きく上昇した後、一時的に2.40台前半まで反落したがレアル買い圧力は強く週間高値となるUS\$1=R\$2.3580まで上昇し、結局同水準で越えた。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
8/27	FIPE CPI-週次	Aug 23	0.25%	0.17%
8/27	FGV建設コスト(前月比)	Aug	0.21%	0.73%
8/28	SELICレート	Aug 28	9.00%	8.50%
8/29	FGVインフレIGPM(前月比)	Aug	0.15%	0.26%
8/29	FGVインフレIGPM(前年比)	Aug	3.86%	5.18%
8/29	PPI 製造業(前月比)	Jul	--	1.33%
8/29	PPI 製造業(前年比)	Jul	--	4.25%
8/29	Outstanding Loans MoM	Jul	--	1.8%
8/29	融資残高	Jul	--	2532B
8/29	個人ローン・デフォルト率	Jul	--	7.2%
8/29	Private Banks Lending	Jul	--	1259B
8/29	中央政府財政収支	Jul	4.0B	1.3B
8/30	GDP(前期比)	2Q	0.8%	0.6%
8/30	GDP(前年比)	2Q	2.3%	1.9%
8/30	GDP(4四半期累計)	2Q	--	1.2%
8/30	純債務対GDP比	Jul	--	34.5%
8/30	Nominal Budget Balance	Jul	--	-12.2B
8/30	基礎的財政収支	Jul	--	5.4B

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ：2.30－2.40

今週は米 FOMC 議事録を控えてドルが対主要通貨で大きく上昇。レアルは投機筋と思しき売りが引き続き多く見られる中、伯中銀がドル売り介入で応戦したが、年初来安値を更新しながら 4 年半振りの水準まで下落した。米 FOMC 議事録からは景気が改善すれば緩和規模を縮小するという計画に幅広い支持が集まっていることが明らかになったが、そのタイミングについては未だコンセンサスが出来ておらず、9 月の会合まで様子見となっている。一方、伯中銀はレアル安を阻止するためこれから頻繁にドル売り介入を実施すると発表し、早速その効果が見られレアルは 1 日に約 3.5% も上昇した。この伯中銀による流動性供給対策を受けて市場で安心感が強まる中、投機筋と思しきドル売りは減少すると考えられ、足許ではポジション調整の動きから更にレアル高が進む可能性があるが、その後はボラティリティは低下するであろう。しかし米金融緩和に関する動向を受けてレアル相場はリスク資産の動きにつられて大きく動く可能性があり、引き続き注意が必要であろう。来週は国内では伯金融政策委員会（COPOM）の開催が予定されており、0.50% の利上げが予想されているほか、海外では米第 2 四半期 GDP の発表を中心に重要な経済指標が発表される。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したのですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A Treasury Department